

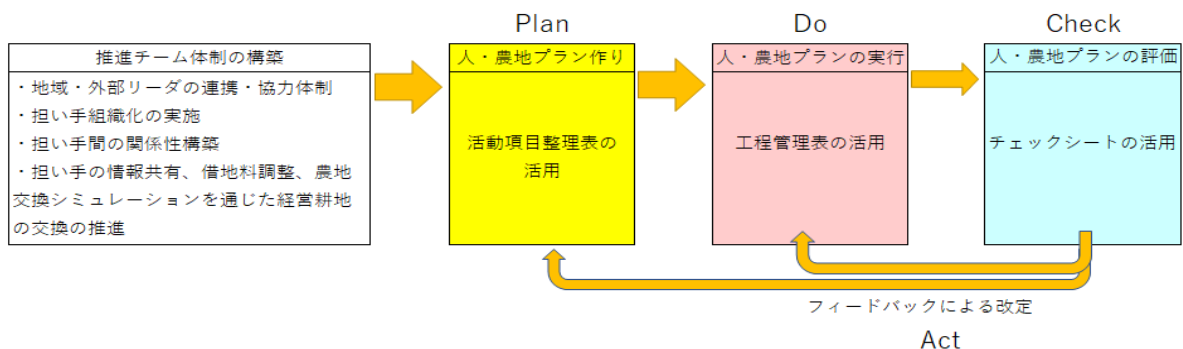
## 農地集約化に向けた人・農地プランの 策定・改定のためのPDCAサイクル

農政は農地中間管理機構（以下、管理機構）と「人・農地プラン」（以下、プラン）」を用いた担い手への農地集約化の取り組みを進めており、その推進が重要な課題となっています。そこでPDCAサイクルに基づき、効果的なプランの作成と改定が行える現場関係者（行政・JA・中間管理機構等の職員、農地利用最適化推進委員等）向けの手順を提示しました。

### ☆ 技術の概要

1. プランの策定・改定に向けたPDCAサイクルは（図1）となります。プラン策定の過程では、チームによる具体的な支援活動項目の抽出・整理が求められます。そこで「戦略マップ」の理論を援用した4つの視点から「支援活動項目」を検討・策定します。
2. 活動支援項目では、プラン作りを通じた目的（担い手集積率80%等）を設定（活性化の視点）します。次に、目的達成に必要な地権者や担い手等の関係者の意向を把握する項目を検討（関係者の視点）します。そして、担い手への農地集約化に向けた地域の「総意」作りのための活動方向を検討（方向性の視点）します。最後に、担い手への農地集約化の効果発揮に向けた仕組み作りを検討します（プロセスの視点）。また、これら支援活動項目と同期した月別工程管理表を作成することでプラン実行に向けた効率的推進を図ります。
3. プラン策定後は、その実行状況を踏まえて、毎年の評価とプランの見直しを行い、改定案を提示する進行管理が必要となります。その際、進行管理チェックシートを用いれば定期的・効率的な軌道修正が可能となります。

図1



### ☆ 活用面での留意点

これらの手順、活動項目表、工程管理表、チェックシートの詳細については、農研機構マネジメント技術のWebサイトからダウンロードできます。

(<https://fmrp.dc.affrc.go.jp/>)

(農研機構 中央農業研究センター 農業経営研究領域 高橋明広)